

ユダヤ人に福音を エターナル・ラブ・イスラエル

☆ ニュースレター29号 ☆



永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。

おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。(エレミヤ 31:3~4)



- 事務局:〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 Tel:090-8729-0856
- メール:eternalloveisrael@gmail.com
- ホームページ:<http://eli.holy.jp>
- 銀行口座:三菱東京UFJ銀行 武蔵新城駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み:00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル
- 代表 宮本 純子(聖契神学校卒業、WMTC 世界宣教研修センター卒業)



☆ユダヤ暦 5784 年を迎えて☆



ハレルヤ! 主の聖名を心から賛美いたします。

いつもエターナル・ラブ・イスラエルの働きのためにお祈りと尊いご献金で支えてくださり心から感謝致します。

去る 9 月 15 日、東京アメリカンクラブにて、ハバッド・ジャパン主催のロシュ・ハシャナ(ユダヤ新年)に出席し、大勢のユダヤ人と「シャナートバ!(良いお年を)」と、挨拶を交わしてユダヤ暦5784 年をお祝いしました。

ユダヤ暦は、西暦に 3760 年を足した年数に等しいですが、これはラビたちが聖書に基づいて天地創造から計算したという年数を採用したものです。

ユダヤ暦の新年は、ティシュレ月(第 7 の月)1 日から2日間お祝いします。

ロシュ・ハシャナには特別な意味のある食物があります。林檎のように丸くてハチミツみたいに甘い年となるように、という意味を込めて、林檎をハチミツに浸して食します。他にも人参、長ネギ、赤カブ、ナツメヤシの実、カボチャ、ザクロ、魚料理を食します。

また、ロシュ・ハシャナは、ラツパの祭りです。ラツパである角笛(ショーファ)をテキヤ、テルア、シェバリームなどの独特の吹き方で吹き鳴らします。

ハバッド・ジャパンでは、9 月 16 日の新年礼拝で、角笛を吹き鳴らしました。

ユダヤ暦 5784 年が、林檎のように丸くてハチミツのように甘い年となりますように。神様の素晴らしい祝福が益々満ち溢れますように心からお祈り申し上げます。

☆ロシュ・ハシャナに参加した感想

森栄 由紀夫☆

「シャナートバ」良いお年を」の挨拶で会場に入るとテーブルに新年の料理が並んでいます。鯛のお頭や黒豆など日本のおせち料理にお馴染みの物があります。またザクロの実も子宝に恵まれるという意味では数の子と同じで日本とイスラエルはやっぱり似ている、と実感しました。また宮本先生との会話でユダヤ人はメシアが来るのを熱望していることを知りました。クリスチャンの私達も再臨のイエス様を待ち望んでいます。同じメシアをユダヤ人もクリスチャンも待ち望んでいるのです。ユダヤ人と異邦人クリスチャンの私達の一つになれる気がしました。「**こういうわけで、あなた方は、もはや他国人でも寄留者でもなく今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。**」(エペソ 3:19)



(森栄由紀夫さん)

イエス様の十字架の贖いの業を感謝しています。

☆イスラエル・ハマス戦争☆



10月7日、現地時間午前6時30分、パレスチナのガザ地区を支配するハマスによるイスラエルへのミサイル攻撃5000発以上が行われました。ちょうど50年前の第四次中東戦争(ヨムキプール戦争)が始まった日の翌日、安息日であり、仮庵の祭りの最終日でもあるスィムハット・トーラーの日でした。

ガザからロケット弾が飛んでくるテロ攻撃は今までもよくありましたが、今回は全く違っていました。ミサイル攻撃と同時に、ハマスのテロリストたちが、7つの国境検問所を突破して越境しイスラエル兵や市民を虐殺し、イスラエル側で1400人以上が死亡しました。1400人の命というこの壊滅的な犠牲は、人口1000万人に満たないイスラエルにとって深刻な打撃です。仮にイスラエルの12倍の人口を抱える日本で考えると、1万5000人の命が失われるのと同規模の悲劇を意味します。



そしてハマスは、民間人220人以上を拉致しました。この中には、30人以上の乳幼児や12歳未満の子どもたちなども含まれています。

同日、イスラエルの首相であるベンヤミン・ネタニヤフは「戦争状態にある。」と声明を出し、緊迫感が伝わってきました。



10月11日、渋谷のスクランブル交差点にてイスラエルへの連帯を示す支援集會が開催され、私も参加しました。在日イスラエル人とイスラエルを愛する人々が約100人規模で集まり、共に人質の即時解放を訴えました。

コーヘン駐日イスラエル大使は「ハマスが起こしたこの戦争を戦い抜く、我々はこの戦争に勝つ」と、演説されました。日本イスラエル親善協会の池田副会長、アメリカのエマニュエル大使やドイツのゲッツェ大使も応援演説をされました。イスラエルの国旗やプラカードを掲げ、イスラエルの歌や国歌「ハティクバ」を歌いました。



11月12日、ハマスによる攻撃から1ヶ月以上が経過し激化する中、私は日比谷公園から東京駅まで約3キロの道のりを在日イスラエル人とイスラエルを愛する1000人以上の方々と共にイスラエル行進をしました。約200人の警備による厳戒態勢の中、イスラエルの賛美をしながらイスラエルの平和を訴えて歩きました。

イスラエルが、ガザ地区を攻撃しているという構図が、日本だけでなく世界中の報道で大きく報道されるようになりました。今、世界中でパレスチナ支援のデモが相次ぎ、反イスラエル、反ユダヤ主義が強まっています。私は、ホロコーストを思い出します。ユダヤ人が虐殺された理由はたった1つ、「ユダヤ人である」ことでした。自分たちの国を持って、どれだけ時代が進んでも、ホロコーストは繰り返されるのでしょうか。



この戦争を機に世界からイスラエルに帰ってきたイスラエル人の数は30万人に上るとのことです。イスラエルという国が困難な時にこそ彼らは帰ってくるのです。

イスラエルは、一般市民を標的にしていません。ガザ市民が犠牲になっているのは、ハマスが市民の移動を禁じ、人間の盾として利用しているからです。ガザの住民を苦しめているのはイスラエルではなくハマスです。イスラエルは、人道状況の改善を目指すなら「戦闘休止」ではなく「テロ組織の一掃」を訴えています。イスラエルは、200人以上の人質を取られ、今もロケット弾やテロの脅威に晒されています。自分の国がそうになったらどうでしょうか。



霊的な目で見ると、本当の敵はサタンです。神様が選び、愛されているイスラエルをサタンは滅ぼそうとしているのです。イスラエルを祝福する者は祝福されます。どうかイスラエルのためにお祈りください。

☆スコット仮庵の祭り☆



9月29日から10月6日まで仮庵の祭りをお祝いしました。ハバッド・ジャパンも大勢のユダヤ人が集まりました。仮庵の祭り(スコット)、過越祭(パサハ)と七週の祭り(シャブオット)は、ユダヤ教三大祭の一つです。スコットとはヘブライ語で「仮庵」のことです。ユダヤ暦ティシュレ月(9~10月)の15日から1週間、ナツメヤシの葉や柳などの茂り合った木の枝で仮小屋を庭やベランダに建て、収穫祭でもあるので、秋の収穫物を天井から下げ、遠い昔エジプトを脱出した後カナン肥沃地に入るまでの40年間、シナイやネゲブの荒野を彷徨した先祖の苦労を思いつつ、スッカー(仮庵)の中で過ごします。仮庵の祭りは、千年王国を予表しています。艱難時代の後、キリストが統治される千年王国の時、全世界の人々がエルサレムで仮庵の祭りを祝う預言が示されています。

「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。」(ゼカリヤ 14:16)

☆日本でイスラエル人と共に☆



10月1日、シャイさんとお会いしました。イスラエルのテルアビブ在住のシャイさんは、ヘブライ大学で東アジア地域学を修了され、とても流暢な日本語を話します。4年ぶりに旅行で訪日され、久しぶりにお会いすることが出来ました。浅草をご案内し、お食事を共にしました。ゆっくりと色々なことをたくさんお話することが出来ました。素晴らしいお交わりを持たれたことを主に心から感謝致します。



10月25日、第36回東京国際映画祭「TATAMI」をベエル・シェバ在住のイタイさんと一緒に鑑賞しました。この映画「TATAMI」は、2019年に日本武道館で開催された世界柔道選手権大会のイスラエル柔道チームのサギ・ムキ選手と元イラン柔道チームのモラエイ選手をヒントに制作されました。



柔道の世界選手権に出場したイラン代表の女子選手が、勝ち進むとイスラエル代表選手と当たる可能性があるため、イラン政府から負傷を装って棄権するよう命令を受け葛藤しながらも試合に出場し続ける姿を描いた作品です。私は、イスラエルと敵対するイランという国を垣間見ることが出来ました。敵対国と戦う可能性があることを理由に、出場辞退をするように脅迫されるのは辛いことです。イラン選手とコーチの心情と緊張感がよく伝わってきました。

私の友人であるイスラエル柔道チームのオレン・スマジャ監督とサギ・ムキ選手のご活躍をお祈り致します。

☆アート・ミニストリーご報告☆



- ❁ 9月6日~10日「第65回太平洋神奈川支部展」横浜市民ギャラリーにて。
 - ❁ 10月10日~15日「第34回神奈川美術協会会員展」横浜市民ギャラリーにて。
 - ❁ 11月7日~13日「万国橋・クリスマス祝展」万国橋ギャラリーにて。
 - ❁ 11月10日~16日「中美展」東京都美術館にて。
 - ❁ 上記の展覧会は、祝福され大盛況のうちに終わることが出来ました。エターナル・ラブ・イスラエルでは、アートを通じて多くの方々に福音を伝える働きをしています。
 - ❁ 2024年2月26日~3月3日「太平洋神奈川同人小品展」みついで画廊にて。
- 皆さまにもぜひご高覧いただければ嬉しく思います。

☆祈りのリクエスト☆



「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちは、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』(詩篇 122:6~7)

☆主のご再臨のために。イスラエルの回復と救いのために。日本のリバイバルのために☆



☆10月7日から開始したイスラエル・ハマース戦争のために。ハマースに拉致された人質が無事に解放されますように。世界中で起きている戦争、紛争、軍事侵攻、テロ、あらゆる対立などがなくなり、平和となりますように。

☆神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、イスラエルの平和が守られ、神様のご計画とみこころが成りますように。

☆反ユダヤ主義が世界中に広がりつつあります。ホロコースト(ユダヤ人大虐殺)の歴史を繰り返すことがないように。反ユダヤ主義がなくなりますように。

☆世界中からユダヤ人がイスラエルに帰還することが出来ますように。

☆世界情勢が激しく動く中、世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、政治を進める事が出来ますように。

☆日本イスラエルの両国間の関係があらゆる分野で発展し、更に良い外交関係を築くことが出来ますように。

☆ユダヤ人が神様に立ち返るためにユダヤ教徒とクリスチャンが一致出来ますようどうかお祈りください。

☆イスラエルの民、ユダヤ人の救いのために。イエス様を信じて救われる魂が多く起こされますように。

☆クリスチャンがユダヤ人迫害をした歴史があります。ユダヤ人とクリスチャンが和解できますように。

☆メシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエル国内で大胆に伝道できますように。

☆エターナル・ラブ・イスラエルのユダヤ人伝道の働きが主に祝福されますように。

☆冬のユダヤの祭り☆



☆12月7日~15日 ハヌカの祭り (宮潔めの祭り、奉獻の祭り)

ハヌカは、ヘブライ語で「奉納」「献堂」という意味です。

ハヌカの祭りは、ユダヤ暦キスレブ月の25日から8日間祝われます。

ハヌカの祭りの起源と由来は、セレウコス朝(312-164 B.C.)時代に遡ります。シリアを支配するギリシャ軍がエルサレムの神殿を占拠しました。しかし、164 B.C.ユダ・マカビーたち指導者のもと、ユダヤ民族は勝利し、聖地エルサレムを奪還して神殿を再び奉獻することができるよう神様が奇跡的に助けて下さいました。

ハヌカは、たとえ少数人数であっても信仰を持って戦い、エルサレムを奪還して神殿を再び奉獻した事の奇跡を記念した祭日です。奪還した神殿には、神聖な油壺が一つ大祭司の封印のまま見つかりました。油は、わずか1日分にも満たなかったのですが、なんと8日間も燃え続けたのです。

ハヌカは別名、「光の祭り」とも呼ばれます。ハヌカには、7枝のメノラーではなく、8枝ともう1枝の蠟燭を灯す枝の9枝の燭台(ハヌキヤ)に、1日ごとに1本ずつ増やして点火していき、8日目に全部が点るようになります。点火用のろうそくは、「シャマシュ」という呼び名がついています。灯りは「希望」と「献身」を象徴しています。一晩ごとに蠟燭の灯りをともしながら、祖先から受け継がれてきたように、ユダヤ民族の未来の世代のために、伝統を持続させることに自身を捧げる意味がこめられています。

💎2024年も皆さまの上に神様の祝福と恵みが豊かにありますよう心からお祈り申し上げます。💎

2023年12月 冬号発行(季刊誌)